

4 材料の保管

【要求】

(1) 材料の保管が、品質を損なわないような適切な方法により行われていることを確認しなければならない。

【具体の方法】

(1)-1) 鉄筋、PC鋼材およびシーズ、定着具等を現場において保管する場合には、変質、腐食、変形等が生じないように適切な方法により行われることを以下に示す①～③により確認する。

- ① 施工要領書により保管方法を確認する。
時期：製作または施工着手前
- ② 保管状態を直接確認する。
時期：保管中随時
- ③ 材料が適切な状態であることを直接確認する。
時期：保管中随時および材料使用前

(1)-2) PCグラウトに使用するセメントや混和材料を現場で保管する場合には、変質、硬化等が生じないように適切な方法により行われることを以下に示す①～③により確認する。

- ① 施工要領書により保管方法を確認する。
時期：製作または施工着手前
- ② 保管状態を直接確認する。
時期：保管中随時
- ③ 材料が適切な状態であることを直接確認する。
時期：保管中随時および材料使用前

(1)-3) プレグラウトPC鋼材を現場で保管する場合には、樹脂の硬化、被覆材の損傷が生じないように配慮がなされ、樹脂の硬化状態に影響を与えないように適切な温度状態に保たれることを以下に示す①～③により確認する。

- ① 施工要領書により保管方法を確認する。
時期：製作または施工着手前
- ② 保管状態を直接確認する。
時期：保管中随時
- ③ 材料が適切な状態であることを直接確認する。
時期：保管中随時および材料使用前

(1)-1) 材料を使用するまでの期間が長くなる場合には、とくに保管中に材料の品質が損なわれないように、それぞれの材料の性質に配慮した保管方法がとられなければならない。保管中に材料の品質に変状が生じたことが懸念された場合には、適切な試験または検査によりその品質を確認し、所要の品質が確保されていないものが使用されないように管理しなければならない。

- (1)-1) 鉄筋、PC鋼材およびシーす、定着具等の現場における保管方法を以下に示す。
- ① 鉄筋の現場搬入後、組立までにある程度の期間の仮置きが必要な場合は、湿気による発錆を防ぐため、地上より20 cm以上離し、通風をよくし、防湿性のシートで材料に密着させないように覆って保管しなければならない。
 - ② 現場に搬入された鉄筋およびPC鋼材等は、径・材質・長さ別に整理して保管する。
- (1)-2) グラウトに使用する材料は、直射日光が当たらないように覆いをし、風通しをよくしなければならない。
- (1)-3) プレグラウトPC鋼材の現場での保管は、樹脂の硬化状態が温度の影響を受けやすいため、保管時の温度状況に十分注意を払う必要がある。したがって、直射日光を避け、温度変化の小さい、風通しの良い場所に保管するものとする。また、被覆材の損傷を防ぐために、枕木等を使用し、地面や橋面に直に置かないようにするとともに、風雨を避けるために、シート等で覆うものとする。さらに、溶接、切断作業をプレグラウトPC鋼材の付近で行わないこととし、やむを得ず作業する場合には、プレグラウトPC鋼材に対して十分な防護をしておかなければならない。